東日本大震災　被災者支援　三菱商事㈱協賛

子どもを思いっきり遊ばせたい

のんびり親子リフレッシュキャンプ

キッズスカラーシップ

「息子の机の上が1マイクロシーベルトのまま下がらず、保養が必要だと思いました」。キャンプの参加動機を尋ねると、福島に住む方々から切迫した答えが返ってきた。また、都内で避難生活を送る方からは、「こちらの学校での生活にいまひとつ馴染めていないので、思い切り遊ばせてほしい」といった回答も多かった。

三菱商事株式会社の支援により、「のんびり親子リフレッシュキャンプ」は、妙高高原ロッジを会場に、8月からこれまでに2泊～3泊のキャンプを7期開催。都内で避難生活を送っているご家族や、福島県に住んでいる方々など、合計177人を招待した。同社からは、社員ボランティアも派遣していただいた。

また、同じく三菱商事の支援により実施した「キッズスカラーシップ」にも、計17人の参加があった。これは、東京ＹＭＣＡが行った夏のキャンプに、被災地児童を招待するものである。いずれも参加者からは大変好評で、解散時に書いていただいた感想文には、「また参加したい」「ありがとうございます」とのメッセージが寄せられた。帰りのバスに乗るときには、多くの方が涙を流されていた。

↑第7期のみなさん。

→森の中でハンモック

家族で楽しんでいただいたそば打ち（写真上）。大人の方も妙高の自然を満喫された（写真左）

参加者からのメッセージ

- 息子が大喜びしながらイキイキと走る姿を久しく見ていなかったので、とてもイキイキしている姿に感謝のひと言です。
- 子どもを思いっきり外で遊ばせられたのが何よりうれしかった。
- 親同士も、今までのことや、これからの不安を話し合うことができ、ホッとして過ごすことができました。
- 福島に住む者にとって、“子どもをできるだけ放射線から遠ざけたい”ということは誰もが思っていることです。本当にありがたい気持ちでいっぱいです。
- 明るく元気なリーダーたちに大変励まされました。雨の中でも子どもたちの気持ちにつきあって存分に遊んでいただき、とてもありがたく思いました。工作やゲームなども、親も一緒に楽しむことができました。大変感謝しております。
- これから終わりのない日々の除染活動の待つ家へ帰るが、この3泊4日を思い出し、次回のキャンプ参加の夢を計画しつつ毎日を過ごします。
- ファミリープログラム、子どもだけのプログラムなど、長期休みごとに開いていただけたらありがたいです。

＜子どもから＞

- 4年生になってから外で遊べません。だからこうして県外に行って遊ぶのがとても楽しいです。
- 久しぶりに外で遊べたことやおいしいご飯をたべられたことが、うれしかったです。でも一番楽しかったのはキャンプファイヤーです。
- みんなで野球をしたことがたのしかった。

オール東京夏まつり

節電の中、活気あふれる

8月27日（土）、東陽町センターに会員・関係者が集まり、夏祭りが開催された。年に一度、東京ＹＭＣＡの全会員とワイズメンズクラブによって行われるお祭りである。今年の実行委員長は金丸満雄氏。天候にも恵まれ、およそ２０００人が参加した。

今年は、東日本大震災により都内に避難している福島県のみなさんも招待し、20名ほどがいらした。被災地の物産販売には、仙台の笹かまぼこやのりのほか、２００４年以後支援を続けている新潟の物産と、２０００年来の三宅島・牛乳せんべいなども並んだ。また例年、会場を彩るちょうちんは、節電のため照明はつけず、入り口のアトリウムには、万国旗が掲げられた。会場のウエルビーも節電のためやや暗めであったが、しかし昨年と変わらず全17の模擬店が並び、こどもコーナーには行列ができた。益金は45万２００４円になった。

恒例の抽選会では、多数の企業・会員から寄贈された景品が並び、会場は熱気に包まれた。また、会員の柿沼敬喜氏より、子どもたちにカブト虫11匹がプレゼントされ、大変喜ばれた。

→ザ・ドリーム・スクエア・ジャズ・オーケストラ

節電のため、ちょうちんの代わりに万国旗を飾った←

→被災地物品を販売してくださった月島小学校の先生方

YM・YW合同祈祷週

「ＹＭ・ＹＷ合同祈祷週」は、全世界のＹＭＣＡ、ＹＷＣＡに連なる人たちが、1901年より毎年1つのテーマを決めて、聖書からメッセージを聴き、祈りを共にする時として定められています。

【2011年度テーマ】
影響を与える声～若者は権利と正義を呼び求める～
【日　程】11月13日（日）～19日（土）

期間中に東京ＹＭＣＡ、東京ＹＷＣＡ、ＡＹＣとで合同祈祷会を開催します。ぜひご参加ください。

【日　時】11月17日(木)18:30～20:30
【会　場】東京ＹＭＣＡ東陽町センター
【問合せ】東京ＹＭＣＡ総務部（Tel 03－3615－5562）

ユースボランティア リーダーズフォーラム

「今、リーダーに求められていること」

第24回ユースボランティア・リーダーズフォーラムが、９月17日～19日、山中湖センターで開催された。このフォーラムは、東日本地区のボランティアリーダーの研修・交流を目的とし、ワイズメンズクラブ国際協会東日本区の全面的なご支援をいただきながら、毎年行っているものである。今年も北海道を初め各地のＹＭＣＡから、経験２年未満のリーダー25人が集まり、学びの時を持った。担当を努めた井口真氏にその模様を報告してもらった。

西東京センター主任主事　井口　真

今年、担当するにあたって狙いとしたのは、技術やテクニックを身につけなくていいということ。もし、自分のありのままを語っていいと思えたら、その分他人の話も心から耳を傾けるべきだと気づけたら、各ＹＭＣＡで、真剣に向き合い話し合えるリーダーが誕生する。それは各地のＹＭＣＡを活性化する。だからグループカウンセラーに依頼したのも、安心して何でも話し合える雰囲気を作って欲しいということだったし、プログラムは全てそのために組まれた。

フォーラムでは毎年、基調講演のタイトルは「今、リーダーに求められていること」と決まっている。だから、講演者の選定が重要だ。そこで、京都ＹＭＣＡ時代に活動を共にした松田秀太郎氏を選んだ。彼は現在、子どもの冒険遊び場づくりをしているプレーパークで、チーフプレーリーダーとして活躍している。

講演の中心は、いかに子どもと向き合うことが出来るか、だった。彼はＹＭＣＡのリーダー経験を引っ提げて、プレーパークのプレーリーダーを始めたが、子どもたちの「日常」に出会い、これまでの経験を全て白紙にし、裸の自分で子どもと接する必要に迫られる。彼は子どもから教えられたという。

「ねえ、子どもの言うことを全部応えようとしなくていいんだよ」

これは小学5年生の女の子にかけられた言葉だ。着任早々の彼は子どもに振り回されっぱなしだったのだ。

「ねぇ、一緒にいるだけで楽しいね」

これは、子どもの気を引くような特別なプログラムなど用意しなくても、子どもの表情を良く見て、今日は学校で何かあったかな？などと考えながら隣に座ることが出来るようになった頃に、同じ子にかけられた言葉だ。そうやって、指導者は子どもに育てられる。

彼は講演の最後にパワーポイントで、「こども〟あるある〟社会学」を流した。「こどもにも社会がある」「こどもにも秘密がある」「こどもにも後悔がある」「こどもにも掟がある」「こどもにも暮らしがある」・・・「あるある」は77にものぼった。彼は、もし「あるある」と思ったら、「あるある」と言ってくださいと言った。だから「こどもにも・・・」と投げかけられた時、みんな、「自分が子どもだった頃」を思い出した。自分の子ども時代を通じて見た「子ども」に対する視線は、共感に満ちた暖かいものになった。次々と流れる「あるある」を見ていくうちに、泣き出す人もいた。みんな一生懸命なこども時代があって、大きくなったのだ。

「いい話を聴いた」で終わってしまわないところにフォーラムのよさがある。感じたことを話し合い、なぜそう思ったか確かめ合う中で、仲間と接するように変えられていく。そうした時間の中で自分が開かれていく。お互いにしっかり向き合い、語り合い、支え合って生きていく。そういう基本を、非日常の中で強烈に体験する出来事。それがフォーラムの本質ではないかと思う。

あなたは、あなたのままでいい。心をゆるして、自分自身に帰った時間だったのだろう。だから、閉会式で幾人ものリーダーが涙をこぼした。こうした、いのちの時間が四半世紀を超えても続いてほしいと願う。